



み か も り よ し と も  
三ヶ森 善智

二戸市建設整備部下水道課  
副主幹兼工務係長



す ず き じ ゅ ん じ  
鈴木 純二

(株)神鋼環境ソリューション  
水処理事業部 営業部

## ◆これまでの経歴は

昭和59年度に二戸市に採用され、農林、建設、都市計画、区画整理、下水道と土木畑を歩んできました。

下水道の仕事は、平成6年度に都市計画課内に下水道係を立ち上げる際、市第1号の下水道担当技師として配属された事に始まります。

その後、新幹線開業を目指し新駅周辺整備を進めていた区画整理室勤務を経て、平成17年度から再度下水道課に勤務しています。

## ◆現在の担当業務は

現在は、副主幹兼工務係長として、工事全般を担当していますが、中小市町村の例に漏れず、基本構想、各種計画策定から、管渠および処理場の維持管理、各種調査、浄化槽事業、農業集落排水事業等、広範囲にわたり担当しています。

## ◆本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

国土交通省の「下水道未普及解消クイックプロジェクト」に応募し、平成19年度無事モデル都市に採択されたことを契機に、平成26年度までの8年間にわたり、未普及解消技術の提案から社会実験実施、および検証までを共同研究させていただくこととなりました。

クイックプロジェクトを縁に、今回初めてお世話になることとなりましたが、ややもすれば井の中の蛙になりがちな地方都市の一担当としては、非常に刺激的な日々を過ごしています。国土交通省をはじめ、下水道行政の第一線で活躍なさっておられる方々と議論できることは、私にとっても、当市にとっても大きなプラスになると確信しています。

今後とも、文字どおり下水道新技術を推進し、産学官、特に未普及解消という大きな問題を抱えている小都市との連携を深め、地球環境保全のため、ご尽力いただきたいと思います。

## ◆これまでの経歴は

下水道との係わりは、昭和63年に神戸製鋼所に入社し、下水処理施設の設計を行っている部署に配属されたことから始まりました。以後、下水処理施設の設計・開発・技術提案業務に従事してきました。平成15年10月に所属部署が神鋼パンテックと統合し、現在の神鋼環境ソリューションとなっています。

これまでに印象に残っていることは、平成7年の阪神・淡路大震災で壊滅した東灘処理場の復旧に携わり、早期立ち上げに向けて関係者とともにも一丸となって取り組んだこと、下水道進機構にお世話になり刺激的な2年間を過ごしたことです。

## ◆現在の担当業務は

昨年の4月から官需水処理（下水・上水・浸出水処理施設）分野を対象にした営業部に所属しております。これまでの経験を生かし、それぞれの地域にあった循環型システムを提供できればと考えております。

## ◆本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

下水道機構在籍中は、「高度処理」・「下水再利用」を課題に、地方公共団体との共同研究に携わりました。弊社に復帰してからも「下水道処理施設ネットワーク維持管理マニュアル」の作成に参画しました。産・官・学が結集して課題に取り組む姿勢を間近にし、たいへん刺激を受けました。

また、弊社はこれまでマニュアル作成の他に建設技術審査証明（平成19年度は『バイオ天然ガス化装置』）においても係わりを持ってきました。

下水道機構は、これまでの研究実績が物語るように下水道に係わるものにとって頼もしい存在です。今後も、下水道機構が最終的に目指すところの『ウイン・ウイン（Win-Win）』の関係構築のために邁進されることを期待します。



よしだ あやこ  
吉田 綾子

東京農業大学短期大学部  
生物生産技術学科講師



てらかわ たかし  
寺川 孝

(財)下水道新技術推進機構  
研究第一部副部長

## ◆これまでの経歴は

平成15年2月から平成18年1月までの3年間、任期付き研究官として国土技術政策総合研究所下水道研究室に勤務し、ディスポーザーに関する研究に参加させていただきました。これまで、農業分野で作物・土壤肥料関係の研究を行ってきた私にとって、ディスポーザーの研究は下水道の技術や役割だけでなく、循環型社会の在り方を改めて学ぶきっかけとなりました。ディスポーザーの研究では、社会実験が実施されていた北海道歌登町での現場調査、沖縄県やつくば市内の管きょ調査などに数多く参加することができ、下水道の重要性を実感する貴重な経験となりました。

任期終了後は、東京農業大学の博士研究員として土壌学研究室に1年間所属し、平成19年4月から東京農業大学短期大学部の講師として園芸学研究室に勤務しています。

## ◆現在の担当業務は

大学では土壌学の講義と野菜や果樹の農業実習・実験、卒論演習を担当しています。主な研究テーマは廃棄物の農業利用ですが、農地の土壤診断や有機農業、都市農業の現状調査など現場調査を中心に活動しています。

## ◆本機構と行った仕事または係わり、本機構の事業活動についての意見をお聞かせください

ディスポーザー影響評価検討会に参加させていただき、「影響判定の考え方」の作成に携わることができました。検討会で審議を重ね成果を取りまとめていくという経験は非常に貴重なものでした。現在は、汚泥の活用技術など下水道機構の成果は農業分野での実践的な研究に繋がると考えています。今後も資源循環に係わる幅広い分野の架け橋となる技術開発と産官学の議論の場を提供していただくことを期待しています。

## ◆これまでの経歴は

昭和63年に大阪市の旧下水道局に入りまして、最初の配属先が処理場、ポンプ場の設計を担当する部署でした。その後、技術開発を担当した後、日本下水道事業団の当時大阪支社設計課に出向させていただきました。市に戻り、下水道の計画、予算を担当しました。こちらに来る前は、道頓堀川など市管理河川の改修や水辺整備、水辺の利活用などを担当しておりました。

## ◆ これまでで思い出に残る仕事は

入ってすぐに任されたなにわ大放水の合流改善対策としての最適運用の検討です。当該ポンプ場は、計画排水能力73m<sup>3</sup>/s、深さ約40mという当時日本で最大級の施設で、さらに、ポンプ棟が直径約40mという円筒形の形状をした下水道では他に例のない施設として計画されていました。

LNG地下貯留タンク、橋梁基礎など他分野の資料を引っ張り出してきてくるなど、設計、施工すべての面で、未知との遭遇でした。また、浸水対策であるこの施設を、合流式下水道の改善対策として利用するため、この相反する施設運用の最適解を見出すため、頭を捻る毎日でした。

## ◆今後の抱負をお聞かせ下さい

浸水、公衆衛生、水質改善など、これまでも下水道は一定の成果を挙げました。しかしながら、財政状況の厳しさが続く中、未普及地域の早期解消、合流改善、資産管理と改築更新など、多くの課題が山積しており、その優先度は、地域事情により微妙に違いを持っています。それぞれの地域事情を的確に捉え、ニーズに応じた最適な技術提供を行っていきたいと考えています。